

# 高山市の統一的な基準による財務書類(令和6年度 一般会計等)概要

## ① 貸借対照表(バランスシート)

貸借対照表は会計年度末時点において市の資産と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを一目で分かるようにしたものです。左側に資産を表示し、右側に負債及び資産と負債の差額である純資産を表示しています。

資産の部（これまで積み上げてきた資産）		負債の部（将来世代が負担する金額）	
1 固定 資産	(1) 事業用資産 庁舎、学校、保育所、体育館、 市営住宅、地区集会所など	970億4,462万円	1 固定 負債
	(2) インフラ資産 道路、公園、橋梁、上下水道など	706億3,265万円	(1) 地方債 82億4,328万円
	(3) 物品、ソフトウェアなど	17億43万円	(2) 退職手当引当金 70億6,162万円
	(4) 投資その他の資産	328億3,319万円	(3) その他の固定負債 56億5,091万円
2 流動 資産	(1) 現金預金	29億2,486万円	2 流動 負債
	(2) 基金、未収金など	255億4,512万円	(1) 賞与等引当金 5億3,836万円
			(2) その他の流動負債 32億6,599万円
資産合計	2,306億8,085万円	負債合計	247億6,016万円
		<b>純資産の部（現在までの世代が負担した金額）</b>	
		純資産合計	2,059億2,070万円
		負債及び純資産合計	2,306億8,085万円

## ④ 資金収支計算書

現金の流れを示すものです。その収支を性質に応じて区分して表示することで、市がどのような活動に資金を必要としているかを表示しています。

前年度末資金残高（繰越金）	37億6,213万円
本年度資金収支額	△10億9,750万円
1 業務活動収支	54億6,023万円
税金、国県等補助金、人件費など	
2 投資活動収支	△69億3,331万円
公共施設等整備費支出、国県等補助金など	
3 財務活動収支	3億7,558万円
地方債等発行、償還など	
本年度末歳計外現金残高（預り金）A	2億6,022万円
本年度末資金残高（来年度繰越金）B	26億6,463万円
<b>本年度末現金預金残高（A+B）</b>	<b>29億2,486万円</b>

## ③ 純資産変動計算書

市の純資産（資産から負債を引いた残り）が年度内にどのように増減したかを明らかにするものです。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような財源や要因で増減したかの情報を表示しています。

前年度末純資産残高	2,028億2,927万円
本年度変動高	30億9,143万円
△純行政コスト	△460億4,475万円
財源	489億8,050万円
(市税、地方交付税、 国・県補助金)	
資産形成への充当	1億5,576万円
その他	△8万円
<b>本年度末純資産残高</b>	<b>2,059億2,070万円</b>

## 市の資産と負債の状況

① 住民1人当たりの資産と負債残高（令和7年3月31日現在人口 81,810人）

資産 = 282万円      負債 = 30万円

② 純資産比率（今までの世代で負担済分）…… 89.3%

社会資本に対する、現在までの世代がすでに負担している割合（社会資本形成の世代間比率）【純資産／総資産】

③ 資産老朽化比率（資産の老朽割合）……… 68.6%

償却資産の耐用年数に対して、取得からどの程度経過しているか把握する割合【減価償却累計額／取得価額】

※ 令和6年度末現在：償却資産取得価額等： 3,267億5,724万円      減価償却累計額： 2,240億3,997万円

④ 負債比率（純資産に対する負債の割合）……… 12.0%

この比率が低いほど財政状況が健全であることを示します。

## 市の令和6年度財政運営の総括

① 業務活動収支 54億6,023万円 ⇒ 堅調な財政運営

② 投資活動収支 △69億3,331万円（資産形成、基金積立）

③ 財務活動収支 3億7,558万円（将来世代の負担）

①～③の合計である令和6年度の資金収支は △10億9,750万円

前年度末資金残高及び本年度末歳計外現金残高との合計は 29億2,486万円

## ② 行政コスト計算書

市の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料等の収入を示すものです。従来の官庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。経常費用合計から経常収益合計を差引いたものが当該年度の純経常行政コストとなります。

経常費用	481億6,360万円
人件費	79億3,552万円
人件費、退職手当引当金繰入など	
物件費等	206億9,506万円
物件費、減価償却費、維持補修費など	
その他の業務費用	2億5,540万円
支払利息など	
移転費用	192億7,761万円
補助金等、社会保障給付、他会計への支出など	
経常収益	22億7,072万円
純経常行政コスト (経常費用－経常収益)	458億9,288万円
臨時損失 災害復旧費など	2億7,979万円
臨時利益 資産売却益など	1億2,791万円
<b>純行政コスト</b> (純経常行政コスト+臨時損失－臨時利益)	<b>460億4,475万円</b>

## ● 4つの財務書類の公表について

市民の皆さんに市の財政状況をよりよく理解していただくため、国が推奨している「新地方公会計制度」に基づいて、4つの財務書類を作成しました。

## ● 財務書類作成に当たって（効果）

今回の財務4表は、平成26年4月に総務省から報告された今後の地方公会計の推進に関する研究会報告書の「統一的な基準」により作成（記載方法詳細は令和7年3月改訂のマニュアルに基づき作成）しています。この「統一的な基準」の特徴は全ての固定資産を対象に公正価格を評価することにあります。そのため、土地及び建物の固定資産台帳を整理したことから財産管理の適正化が図られました。

# 高山市の統一的な基準による財務書類(令和6年度 全体会計)概要

## ① 貸借対照表(バランスシート)

貸借対照表は会計年度末時点において市の資産と、その資産をどのような財源(負債・純資産)で賄ってきたかを一目で分かるようにしたものです。左側に資産を表示し、右側に負債及び資産と負債の差額である純資産を表示しています。

資産の部(これまで積み上げてきた資産)		負債の部(将来世代が負担する金額)	
1 固定 資産	(1) 事業用資産 庁舎、学校、保育所、体育館、 市営住宅、地区集会所など	1,021億5,835万円	1 (1) 地方債 258億625万円
	(2) インフラ資産 道路、公園、橋梁、上下水道など	1,321億6,012万円	(2) 退職手当引当金 70億6,162万円
	(3) 物品、ソフトウェアなど	75億6,863万円	(3) その他の固定負債 243億3,657万円
	(4) 投資その他の資産	309億841万円	2 (1) 賞与等引当金 6億38万円
2 流動 資産	(1) 現金預金	76億4,788万円	(2) その他の流動負債 64億6,022万円
	(2) 基金、未収金など	269億4,957万円	負債合計 642億6,502万円
資産合計		3,073億9,297万円	負債及び純資産合計 3,073億9,297万円
			純資産の部(現在までの世代が負担した金額)
			純資産合計 2,431億2,795万円

## ④ 資金収支計算書

現金の流れを示すものです。その収支を性質に応じて区分して表示することで、市がどのような活動に資金を必要としているかを表示しています。

前年度末資金残高(繰越金)	82億6,572万円
本年度資金収支額	△8億7,806万円
1 業務活動収支	83億6,187万円
税金、国県等補助金、人件費など	
2 投資活動収支	△99億9,580万円
公共施設等整備費支出、国県等補助金など	
3 財務活動収支	7億5,587万円
地方債等発行、償還など	
本年度末歳計外現金残高(預り金) A	2億6,022万円
本年度末資金残高(来年度繰越金) B	73億8,766万円
本年度末現金預金残高(A+B)	76億4,788万円

## ③ 純資産変動計算書

市の純資産(資産から負債を引いた残り)が年度内にどのように増減したかを明らかにするものです。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような財源や要因で増減したかの情報を表示しています。

前年度末純資産残高	2,396億520万円
本年度変動高	35億2,275万円
△純行政コスト	△620億524万円
財源	660億292万円
(市税、地方交付税、 国・県補助金)	
資産形成への充当	1億5,576万円
その他	△6億3,069万円
本年度末純資産残高	2,431億2,795万円

## 市の資産と負債の状況

① 住民1人当たりの資産と負債残高 (令和7年3月31日現在人口 81,810人)

資産 = 376万円      負債 = 79万円

② 純資産比率(今までの世代で負担済分) …… 79.1%

社会資本に対する、現在までの世代がすでに負担している割合(社会資本形成の世代間比率)【純資産/総資産】

③ 資産老朽化比率(資産の老朽割合) …… 64.9%

償却資産の耐用年数に対して、取得からどの程度経過しているか把握する割合【減価償却累計額/取得価額】

※ 令和6年度末現在：償却資産取得価額等：4,850億3,730万円      減価償却累計額：3,148億6,250万円

④ 負債比率(純資産に対する負債の割合) …… 26.4%

この比率が低いほど財政状況が健全であることを示します。

## 市の令和6年度財政運営の総括

① 業務活動収支 83億6,187万円 ⇒ 堅調な財政運営

② 投資活動収支 △99億9,580万円 (資産形成、基金積立)

③ 財務活動収支 7億5,587万円 (将来世代の負担)

①～③の合計である令和6年度の資金収支は △8億7,806万円

前年度末資金残高及び本年度末歳計外現金残高との合計は 76億4,788万円

## ② 行政コスト計算書

市の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料等の収入を示すものです。従来の官庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。経常費用合計から経常収益合計を差引いたものが当該年度の純経常行政コストとなります。

経常費用	688億5,387万円
人件費	87億1,432万円
人件費、退職手当引当金繰入など	
物件費等	261億8,969万円
物件費、減価償却費、維持補修費など	
その他の業務費用	8億2,951万円
支払利息など	
移転費用	331億2,036万円
補助金等、社会保障給付、他会計への支出など	
経常収益	70億69万円
純経常行政コスト (経常費用 - 経常収益)	618億5,318万円
臨時損失 災害復旧費など	2億7,997万円
臨時利益 資産売却益など	1億2,791万円
純行政コスト (純経常行政コスト + 臨時損失 - 臨時利益)	620億524万円

## ● 4つの財務書類の公表について

市民の皆さんに市の財政状況をよりよく理解していただくため、国が推奨している「新地方公会計制度」に基づいて、4つの財務書類を作成しました。

## ● 財務書類作成に当たって(効果)

今回の財務4表は、平成26年4月に総務省から報告された今後の地方公会計の推進に関する研究会報告書の「統一的な基準」により作成(記載方法詳細は令和7年3月改訂のマニュアルに基づき作成)しています。この「統一的な基準」の特徴は全ての固定資産を対象に公正価格を評価することにあります。そのため、土地及び建物の固定資産台帳を整理したことから財産管理の適正化が図られました。

# 高山市の統一的な基準による財務書類(令和6年度 連結会計)概要

## ① 貸借対照表(バランスシート)

貸借対照表は会計年度末時点において市の資産と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを一目で分かるようにしたものです。左側に資産を表示し、右側に負債及び資産と負債の差額である純資産を表示しています。

資産の部（これまで積み上げてきた資産）		負債の部（将来世代が負担する金額）	
1 固定 資産	(1) 事業用資産 庁舎、学校、保育所、体育館、 市営住宅、地区集会所など	1,027億5,367万円	1 固定負債 (1) 地方債 311億8,507万円
	(2) インフラ資産 道路、公園、橋梁、上下水道など	1,321億6,012万円	(2) 退職手当引当金 78億2,458万円
	(3) 物品、ソフトウェアなど	76億9,420万円	(3) その他の固定負債 191億1,440万円
	(4) 投資その他の資産	311億7,448万円	2 流動負債 (1) 賞与等引当金 6億178万円
2 流動 資産	(1) 現金預金	87億4,225万円	(2) その他の流動負債 67億2,231万円
	(2) 基金、未収金など	273億7,048万円	負債合計 654億4,814万円
資産合計		3,098億9,520万円	負債及び純資産合計 654億4,814万円
			<b>純資産の部（現在までの世代が負担した金額）</b>
			純資産合計 2,444億4,706万円
			負債及び純資産合計 3,098億9,520万円

## ④ 資金収支計算書

現金の流れを示すものです。その収支を性質に応じて区分して表示することで、市がどのような活動に資金を必要としているかを表示しています。

前年度末資金残高（繰越金）	94億474万円
本年度資金収支額	△8億9,655万円
1 業務活動収支	86億5,647万円
税金、国県等補助金、人件費など	
2 投資活動収支	△102億9,258万円
公共施設等整備費支出、国県等補助金など	
3 財務活動収支	7億3,956万円
地方債等発行、償還など	
本年度末歳計外現金残高（預り金）A	2億6,028万円
本年度末資金残高（来年度繰越金）B	84億8,197万円
<b>本年度末現金預金残高（A+B）</b>	<b>87億4,225万円</b>

## ③ 純資産変動計算書

市の純資産（資産から負債を引いた残り）が年度内にどのように増減したかを明らかにするものです。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような財源や要因で増減したかの情報を表示しています。

前年度末純資産残高	2,409億8,727万円
本年度変動高	34億5,979万円
△純行政コスト	△720億1,906万円
財源	760億1,292万円
(市税、地方交付税、国・県補助金)	
資産形成への充当	1億4,609万円
その他	△6億8,016万円
<b>本年度末純資産残高</b>	<b>2,444億4,706万円</b>

## 市の資産と負債の状況

① 住民1人当たりの資産と負債残高（令和7年3月31日現在人口 81,810人）

資産 = 379万円      負債 = 80万円

② 純資産比率（今までの世代で負担済分）…… 78.9%

社会資本に対する、現在までの世代がすでに負担している割合（社会資本形成の世代間比率）【純資産／総資産】

③ 資産老朽化比率（資産の老朽割合）……… 64.9%

償却資産の耐用年数に対して、取得からどの程度経過しているか把握する割合【減価償却累計額／取得価額】

※ 令和6年度末現在：償却資産取得価額等：4,850億3,730万円      減価償却累計額：3,148億6,250万円

④ 負債比率（純資産に対する負債の割合）……… 26.8%

この比率が低いほど財政状況が健全であることを示します。

## 市の令和6年度財政運営の総括

① 業務活動収支 86億5,647万円 ⇒ 堅調な財政運営

② 投資活動収支 △102億9,258万円（資産形成、基金積立）

③ 財務活動収支 7億3,956万円（将来世代の負担）

①～③の合計である令和6年度の資金収支は △8億9,655万円

前年度末資金残高及び本年度末歳計外現金残高との合計は 87億4,225万円

## ② 行政コスト計算書

市の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料等の収入を示すものです。従来の官庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。経常費用合計から経常収益合計を差引いたものが当該年度の純経常行政コストとなります。

経常費用	813億5,488万円
人件費	100億9,729万円
人件費、退職手当引当金繰入など	
物件費等	275億4,963万円
物件費、減価償却費、維持補修費など	
その他の業務費用	10億7,319万円
支払利息など	
移転費用	426億3,477万円
補助金等、社会保障給付、他会計への支出など	
経常収益	95億542万円
純経常行政コスト (経常費用－経常収益)	718億4,946万円
臨時損失 災害復旧費など	4億5,356万円
臨時利益 資産売却益など	2億8,396万円
<b>純行政コスト</b> (純経常行政コスト+臨時損失－臨時利益)	<b>720億1,906万円</b>

## ● 4つの財務書類の公表について

市民の皆さんに市の財政状況をよりよく理解していただくため、国が推奨している「新地方公会計制度」に基づいて、4つの財務書類を作成しました。

## ● 財務書類作成に当たって（効果）

今回の財務4表は、平成26年4月に総務省から報告された今後の地方公会計の推進に関する研究会報告書の「統一的な基準」により作成（記載方法詳細は令和7年3月改訂のマニュアルに基づき作成）しています。この「統一的な基準」の特徴は全ての固定資産を対象に公正価格を評価することにあります。そのため、土地及び建物の固定資産台帳を整理したことから財産管理の適正化が図られました。